



# 掲示板

## 研究会・研修会等への 報告者・講師の派遣

(平成十一年三月～七月)

○まくべつ農村アカデミー・  
平成十年度開校式・講演  
主催 幕別町  
とき 平成11年3月29日  
テーマ 「地域と農業―地域集落  
農業の確立にむけて―」  
講演者 七戸 長生(当研究所・  
所長)

○ホクレン実需販売課担当係長  
会議・研修  
主催 ホクレン実需販売課  
とき 平成11年5月18日

テーマ 「馬鈴しょの生産・流通  
の推移と加工食品原料取  
扱技術の基礎知識」  
講演者 富田 義昭(当研究所・  
常務理事)

○平成十一年度石狩管内生活部門  
分担対応普及員・プロジェクト  
研修  
主催 石狩支庁農務課

とき 平成11年5月21日  
テーマ 「農業雇用の実態と問題  
点について」  
講演者 岩崎 徹(当研究所・客  
員研究員) 札幌大学教  
授)

○「田花染の里」花・野菜総合技  
術セミナー  
主催 空知管内農協組合長会・  
JA中央会岩見沢支所  
とき 平成11年6月23日  
テーマ 「研究者からみた花・野  
菜の流通の課題」  
講演者 富田 義昭(当研究所・  
研究顧問)

○地域農業振興計画策定研修会  
主催 十勝農業協同組合連合会  
とき 平成11年7月16日  
テーマ 「道内における地域農業  
振興計画策定ポイント―  
基本的事項と取り組み事  
例を中心に―」

講演者 富田 義昭(当研究所・  
研究顧問)

○平成十一年度「ペルー地域開発  
計画」指導者セミナー  
主催 国際協力事業団(JICA)  
A)  
支援(北海道開発局など)  
とき 平成11年7月19日  
テーマ 「北海道の農業政策」  
講演者 北倉 公彦(当研究所・  
研究参与)

○平成国別特設「中央アジア農産  
物市場経済」コース  
主催 国際協力事業団(JICA)  
A)  
支援(北海道農政部)  
とき 平成11年7月26日

テーマ 「北海道農業の営農シス  
テム」  
講演者 富田 義昭(当研究所・  
研究顧問)



## お知らせ

当研究所において、最近とりま  
とめ発行した資料の一部について  
次のとおり紹介します。  
希望の方には頒布しますので申  
込み願います。

◎研修資料  
馬鈴しょの生産・流通の推移  
と加工食品原料の取扱技術の  
基礎知識

北海道の畑作農業の基幹作物と  
して、馬鈴しょの位置づけは重要  
であり、近年は用途が多様化して  
いるのが現状です。特に、用途の  
大半を占めるでん粉の生産・流通  
が難しい局面をむかえ、これまで

以上に生食用や加工食品用に力を注がなければならぬのが実態です。

急成長した加工食品用においては輸入品との競合関係で、厳しい環境にあります。最近では加工適性が高い品種も次々に登場しており、また新規の商品が生まれています。北海道産の原料の供給が九〇%を超える占有率状態のなかで、今後とも期待される分野として位置づけされているものの、栽培や取扱技術が確立しているとは言えないのが事実であり、一層の改善努力が必要です。

また戦後五〇年余を経過するなかで、馬鈴しょの生産・流通がどの様に推移したか、特に、施策と技術的誘導が収量や品質にどの様に関わったかなどについて、経年的な変化を見ると大変興味深い関係があり、今後の施策や技術的誘導が大切であることが分かります。

当研究所の富田研究顧問は、長年にわたり馬鈴しょの生産・流通に深く関わった経験・知識を生か

し、研修会など対応の機会があるため、このほど資料をまとめ発行しました。

内容は、①「馬鈴しょの生産・流通の推移について」北海道農業経済学会にて、二回にわたり報告した資料で、戦後五〇年余におよぶ経過のなかで、施策と技術指導が生産性など経済的な側面どう関わったかを整理したもの、②JA全農が平成八年に馬鈴しょでん粉のユーザー向けに作ったPR冊子「馬鈴しょでん粉―特性とその利用―」のなかで、「北海道農業と馬鈴しょの生産・流通」をテーマに平易に執筆したもの、③加工食品原料を主体とした、栽培・取扱技術の概要について、少し古い時代にまとめた資料ですがそのまま収録、④最近の馬鈴しょに関する若干の統計資料などをまとめて掲載しています。

WTO体制下のなかで、国による農産物の価格支持政策は存続が不可能になり、今後は市場原理の導入により、厳しい環境が想定さ

れます。とりわけ、馬鈴しょでん粉に対する施策いかによっては先行き不安が予想されます。したがって、各用途とも一層の安心・安全・安定供給、さらには品質、コスト競争に立ち向かう必要がありますが、そのためには、これまでの経過と現状に対する関係者の共通認識を持った上での取り組みが肝要で、「温故知新」の考えの中から、新しい方向性を探ることが必要と思われる。

この資料が、馬鈴しょの生産・流通・消費、施策誘導や技術指導の基礎と応用力を持つ一助となればとの願いから、若干の部数を用意しておりますので、希望者には頒布できます。

・研修資料 馬鈴しょの生産・流通の推移と加工食品原料の取扱技術の基礎知識

・A四版 一〇〇ページ  
・配付価格 一冊一、五〇〇円  
(送料・消費税込み)

・代金振り込み先

北信連

普通口座1127003

(社)北海道地域農業

研究所

・申込先 (社)北海道地域農業

研究所

電話 〇一一(二八二)

二五六六

FAX 〇一一(二八二)

二七〇七

### 農村の高齢化問題 最終報告書

当研究所の自主研究として、平成八年より三ヶ年をかけて調査研究した結果の最終報告書ができあがり、このほど会員に対し配付しました。

農村の高齢化は都市より一段と進み、府県では高齢者対策にJAが事業として取り組むところが多くなっていますが、北海道では生

## 新しい役員体制

### 役員の補欠選任

五月二七日開催の当研究所通常総会で富田義昭理事（研究所常務理事）、真嶋博理事（前農林漁業金融公庫北海道支店長）の辞任により新たに佐伯憲司氏（研究所研究部長）、打田宏氏（農林漁業金融公庫北海道支店長）が理事に選任され、総会終了後の理事会で佐伯憲司理事が常務理事に互選された。

なお富田氏は研究顧問として引き続き当研究所に在籍する。

また七月一六日開催の当研究所の臨時総会で直宗治理事（前J A北海道中央会副会長）、吉原弘行理事（前北海道信連副会長）、宮田勇理事（前北海道共済連副会長）、武田弘道理事（前北海道厚生連副会長）、竹内正一理事（前北海道町村会副会長）、鈴木政二監事（前北海道農業共済組合連合会会

産第一主義のため、生活や福祉は二の次に考えているのが実態です。

しかし、来年四月から始まる介護保険制度や農村の高齢化の進展は、介護のため貴重な労働力を削がれるため、後継者不足などによる担い手対策とともに切実な問題になっています。

報告書では、平成八、九年には高齢者福祉対策の進んでいる「粟山町」を対象に、①高齢者のアンケート調査・農家調査、②リタイア農家の訪問調査を中間報告としてまとめましたが、市街地と農村部での温度差がみられ、農村部での対応が課題として浮き彫りにされました。

平成一〇年度は、これまでの調査研究の結果を踏まえ、さらに道内五ヶ所の特徴ある「市町村」で、①J Aが高齢者対策の進めについて積極的に検討をおこなっているところ、②行政が在宅医療を積極的に実施しながら、介護保険を前にして積極的な体制整備を行っているところ、③社会福祉協議会の

活動が活発なところなどを調査しました。

これらの調査結果から、農村の高齢化対策に対応するために、「J Aが何をなすべきか」をテーマにまとめました。しかし、J Aの事業実施に当たっては様々な障害があると考えられます。

報告書では、農村部の元気老人対策を提言すると共に、J Aが農作業繁忙期の要介護高齢者に対し、昼食などのデイサービスの実施あるいは、地域に根ざした小規模な「託老所」の設置などの比較取り組みが可能な事柄を提案し、北海道農業経営対策、地域の高齢福祉対策の一助になればと願っているところです。

当研究所ではこの研究をはじめたこともあり、昨年の総会時の記念講演には栃木県塩野谷農協関係者による「福祉事業と農協・行政の役割—J A（旧J Aやいた）におけるデイサービスの運営について—」をテーマに講演をしましたが、その後十勝管内J A参事会の

研修では、栃木県塩野谷農協に出向いて視察・研修を行うなど道内での動きが見られます。

また、この報告書を基に、今年度の総会の記念講演では、研究チームの座長を担った、北海道大学教育学部教授の鈴木敏正氏に「農村の福祉事業と農協の役割」と題する講演を行いました。

なお、この資料については若干の予備があります。希望者には頒布できます。

農村の高齢化問題最終報告書

・ A四版 一一二ページ

・ 配付価格 一冊一、〇〇〇円

（送料・消費税込み）

・ 申込み先の連絡・代金振り込み先については前記資料と同様です。

## DATA FILE

### 関連事項／DATA

#### 北海道大学

〒060-8589

札幌市北区北9条西9丁目

☎ 011(716)2111

#### 根釧農業試験場

〒086-1153

標津郡中標津町桜ヶ丘1丁目1番地

☎ 01537(2)2004

#### ホクレン農業協同組合連合会

〒060-0004

札幌市中央区北4条西1丁目

☎ 011(232)6108 広報宣伝課

#### 北海道農業開発公社

〒060-0005

札幌市中央区北5条西6丁目

☎ 011(271)2231

農地開発センター内

#### 洞爺村役場

〒049-5802

虻田郡洞爺村字洞爺町96番地

☎ 0142(82)5111

#### JAとうや湖、洞爺支所

〒049-5802

虻田郡洞爺村字洞爺町77番地

☎ 0142(82)5321

長)の辞任にとまない新たに山口義弘氏(JA北海道中央会副会長)、花井忠昭氏(北海道信連副会長)、坂本和夫氏(北海道厚生連副会長)、長尾保秀氏(北海道共済連常務)、加賀谷強氏(北海道町村会副会長)が理事に、平林利夫氏(北海道農業共済組合連合会会長)が監事に選任され、その後の理事会で山口義弘理事が副理事長に互選された。また監事会で平林利夫監事が代表監事に選ばれた。

このため、現役員体制は下記のとおり。

### 役員名簿

氏名	理事・監事の別	所 属
上田 恒夫	理 事 長	北海道地域農業研究所 理事長
山口 義弘	副 理 事 長	北海道農業協同組合中央会 副会長
七戸 長生	研 究 所 長	市立名寄短期大学 学長・(北大名誉教授)
佐伯 憲司	常 務 理 事	北海道地域農業研究所 常務理事
太田原高昭	理 事	北海道大学大学院農学研究科 科長
岩崎 徹	理 事	札幌大学経済学部 教授
花井 忠昭	理 事	北海道信用農業協同組合連合会 副会長
板垣 淳一	理 事	ホクレン農業協同組合連合会 副会長
坂本 和夫	理 事	北海道厚生農業協同組合連合会 副会長
長尾 保秀	理 事	北海道共済農業協同組合連合会 常務
加賀谷 強	理 事	北海道町村会 副会長
向井 孝志	理 事	㈱北海道農業開発公社 理事長
安井 勉	理 事	市民生協コープさっぽろ 会長
打田 宏	理 事	農林漁業金融公庫 北海道支店長
末村 真一	理 事	農林中央金庫 札幌支店長
竹内 憲二	理 事	全国農業協同組合連合会 札幌支店長
平林 利夫	代 表 監 事	北海道農業共済組合連合会 会長
有塚 利宣	監 事	帯広川西農業協同組合 代表理事組合長